



SnapMirror

ONTAP 9

NetApp
January 23, 2026

目次

SnapMirror	1
SnapMirror関係に対応したONTAPバージョン	1
ユニファイド レプリケーション関係	1
SnapMirror同期関係	3
SnapMirror SVMディザスタ リカバリ関係	4
SnapMirrorディザスタ リカバリ関係	6
既存のONTAP SnapMirror DPタイプ関係をXDPに変換する	7
ONTAPのアップグレード前に長期保持Snapshotを無効にする	14

SnapMirror

SnapMirror関係に対応したONTAPバージョン

SnapMirrorデータ保護関係を作成する前に、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームで互換性のあるONTAPバージョンが実行されている必要があります。ONTAPをアップグレードする前に、現在のONTAPバージョンにSnapMirror関係のターゲットONTAPバージョンとの互換性があることを確認する必要があります。

ユニファイド レプリケーション関係

オンプレミスまたはCloud Volumes ONTAPリリースを使用した、タイプ「XDP」のSnapMirror関係の場合：

ONTAP 9.9.0以降：

- ONTAP 9.x.0リリースはクラウド専用リリースであり、Cloud Volumes ONTAPシステムをサポートします。リリースバージョンの後のアスタリスク（*）は、クラウド専用リリースであることを示します。



ONTAP 9.16.0は"ASA r2システム"をサポートしているため、クラウドのみのルールの例外となります。リリースバージョンの後のプラス記号（+）は、ASA r2とクラウドの両方でサポートされているリリースを示します。ASA r2システムは、他のASA r2システムとのSnapMirror関係のみをサポートします。

- ONTAP 9.x.1は一般リリースで、オンプレミス システムとCloud Volumes ONTAPシステムの両方をサポートします。



ONTAP 9.16.1以降を実行しているクラスタ内のボリュームで"高度な容量バランス調整"が有効になっている場合、ONTAP 9.16.1より前のONTAPバージョンを実行しているクラスタへのSnapMirror転送はサポートされません。



双方向の互換性があります。

ONTAP バージョン9.4以降の相互運用性

ONTAP バージョン	以前の ONTAP バージョンと相互運用できます...																					
	9.1 8.1	9.1 7.1	9.1 6.1	9.1 6.0 以上	9.1 5.1	9.1 5.0 *	9.1 4.1	9.1 4.0 *	9.1 3.1	9.1 3.0 *	9.1 2.1	9.1 2.0 *	9.1 1.1	9.1 1.0 *	9.1 0.1	9.1 0.0 *	9.9 .1	9.9 .0*	9.8	9.7	9.6	9.5

9.1 0.0 *	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
9.9 .1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.9 .0*	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.8	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.7	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.5	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい

SnapMirror同期関係



SnapMirror同期は、ONTAP Cloudインスタンスではサポートされません。

ONTAPバージョン	以前の ONTAP バージョンと相互運用できます...													
	9.18.1	9.17.1	9.16.1	9.15.1	9.14.1	9.13.1	9.12.1	9.11.1	9.10.1	9.9.1	9.8	9.7	9.6	9.5
9.18.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.17.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.16.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.15.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.14.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
9.13.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
9.12.1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ

9.11.1	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.10.1	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.9.1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
9.8	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
9.7	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
9.6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
9.5	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい

SnapMirror SVMディザスタ リカバリ関係



- このマトリックスは、ONTAP 9.10.1以降のSVMデータ モビリティ移行機能に適用されません。
- SVM DR を使用して、"**SVM移行 (SVMデータモビリティ)**"に示されている制限を満たしていない SVM を移行できます。
- どちらの場合も、ソース クラスタとデスティネーション クラスタを最大 2 つのメジャー 新しい ONTAP バージョンで分離できます。ただし、デスティネーションはソース ONTAP バージョンと同じバージョンかそれより新しいバージョンである必要があります。

SVMディザスタ リカバリ データとSVM保護の場合：

SVM ディザスタ リカバリは、同じバージョンのONTAPを実行しているクラスタ間でのみサポートされます。**SVM** レプリケーションではバージョン非依存はサポートされません。

SVMディザスタ リカバリとSVM移行の場合：

- ソース上の以前のONTAPバージョンから、デスティネーション上の同じかそれ以降のONTAPバージョンへの、単一方向のレプリケーションがサポートされます。
- ターゲット クラスタ上の ONTAP バージョンは、次の表に示すように、オンプレミスのメジャー バージョンより 2 つ以下新しいバージョン、またはクラウドのメジャー バージョンより 2 つ以下新しいバージョン (ONTAP 9.9.0 以降) である必要があります。
 - 長期的なデータ保護に対してはレプリケーションはサポートされません。

リリース バージョンの後のアスタリスク (*) は、クラウドのみのリリースを示します。

サポート状況を確認するには、表の左側の列でソース バージョンを特定し、最上部の行でデスティネーション バージョンを特定します (同等バージョンの場合は「DR / 移行」、新しいバージョンの場合は「移行」のみ)。



ONTAP 9.10.1以降を使用している場合は、SVM DRの代わりに"**SVMのデータ移動**"機能を使用して、SVMをあるクラスタから別のクラスタに移行できます。

ソース	デスティネーション																					
	9.5	9.6	9.7	9.8	9.9 .0*	9.9 .1	9.1 0.0 *	9.1 0.1	9.1 1.0 *	9.1 1.1	9.1 2.0 *	9.1 2.1	9.1 3.0 *	9.1 3.1	9.1 4.0 *	9.1 4.1	9.1 5.0 *	9.1 5.1	9.1 6.0	9.1 6.1	9.1 7.1	9.1 8.1
9.5	DR 移行	移行	移行																			
9.6		DR 移行	移行	移行																		
9.7			DR 移行	移行	移行																	
9.8				DR 移行	移行	移行		移行														
9.9 .0*					DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行												
9.9 .1						DR 移行	移行	移行	移行	移行												
9.1 0.0 *							DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行										
9.1 0.1								DR 移行	移行	移行	移行	移行										
9.1 1.0 *									DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行								
9.1 1.1										DR 移行	移行	移行	移行	移行								
9.1 2.0 *											DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行						
9.1 2.1												DR 移行	移行	移行	移行	移行						
9.1 3.0 *													DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行				
9.1 3.1														DR 移行	移行	移行	移行	移行				

9.1 4.0 *														DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行		
9.1 4.1														DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行		
9.1 5.0 *															DR 移行	移行	移行	移行	移行	移行	
9.1 5.1																DR 移行	移行	移行	移行	移行	
9.1 6.0																	DR 移行	移行	移行	移行	移行
9.1 6.1																		DR 移行	移行	移行	移行
9.1 7.1																			DR 移行	移行	移行
9.1 8.1																				DR 移行	移行

SnapMirrorディザスタ リカバリ関係

SnapMirrorタイプが「DP」でポリシー タイプが「async-mirror」の関係の場合：



DPタイプのミラーはONTAP 9.11.1以降では初期化できず、ONTAP 9.12.1では完全に廃止されました。詳細については、"[データ保護SnapMirror関係の廃止](#)"を参照してください。



次の表で、左側の列がソース ボリュームのONTAPバージョン、上段がデスティネーション ボリュームで使用可能なONTAPバージョンです。

ソース	デスティネーション								
	9.11.1	9.10.1	9.9.1	9.8	9.7	9.6	9.5	9.4	9.3
9.11.1	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.10.1	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.9.1	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.8	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.7	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
9.6	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
9.5	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ

9.4	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
9.3	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい



双方向の互換性はありません。

既存のONTAP SnapMirror DPタイプ関係をXDPに変換する

ONTAP 9.12.1以降にアップグレードする場合は、アップグレード前にDPタイプの関係をXDPに変換する必要があります。ONTAP 9.12.1以降では、DPタイプの関係はサポートされません。既存のDPタイプの関係を簡単にXDPに変換して、バージョンに依存しないSnapMirrorを活用できます。

ONTAP 9.12.1以降のリリースにアップグレードする前に、既存のDPタイプの関係をXDPに変換する必要があります。

タスク概要

- SnapMirrorでは、既存のDPタイプの関係をXDPに自動的に変換しません。関係を変換するには、既存の関係を解除して削除し、新しいXDP関係を作成して関係を再同期する必要があります。
- 変換を計画する場合は、XDP SnapMirror関係のバックグラウンドでの準備とデータの保存処理に時間がかかることに注意してください。長時間にわたってSnapMirror関係のステータスが「preparing」と表示されることも珍しくありません。



SnapMirror関係のタイプをDPからXDPに変換すると、オートサイズやスペース ガランティなどのスペース関連の設定はデスティネーションにレプリケートされなくなります。

手順

1. デスティネーション クラスタから、SnapMirror関係がDPタイプ、ミラー状態がSnapMirrored、関係のステータスがIdle、関係が健全であることを確認します。

```
snapmirror show -destination-path <SVM:volume>
```

次の例は、`snapmirror show` コマンドからの出力を示しています：

```
cluster_dst:>snapmirror show -destination-path svm_backup:volA_dst
```

```
Source Path: svm1:volA
Destination Path: svm_backup:volA_dst
Relationship Type: DP
SnapMirror Schedule: -
Tries Limit: -
Throttle (KB/sec): unlimited
Mirror State: Snapmirrored
Relationship Status: Idle
Transfer Snapshot: -
Snapshot Progress: -
Total Progress: -
Snapshot Checkpoint: -
Newest Snapshot: snapmirror.10af643c-32d1-11e3-954b-
123478563412_2147484682.2014-06-27_100026
Newest Snapshot Timestamp: 06/27 10:00:55
Exported Snapshot: snapmirror.10af643c-32d1-11e3-954b-
123478563412_2147484682.2014-06-27_100026
Exported Snapshot Timestamp: 06/27 10:00:55
Healthy: true
```



`snapmirror show` コマンド出力のコピーを保持しておく、既存の関係設定を追跡するのに役立ちます。link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli//snapmirror-show.html>["ONTAP コマンド リファレンス"]の`snapmirror show`の詳細をご覧ください。

2. ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームの両方に共通のスナップショットがあることを確認します。

```
volume snapshot show -vserver <SVM> -volume <volume>
```

次の例は、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームの `volume snapshot show` 出力を示しています：

```

cluster_src:> volume snapshot show -vserver svm1 -volume volA
---Blocks---
Vserver Volume Snapshot State Size Total% Used%
-----
svm1 volA
weekly.2014-06-09_0736 valid 76KB 0% 28%
weekly.2014-06-16_1305 valid 80KB 0% 29%
daily.2014-06-26_0842 valid 76KB 0% 28%
hourly.2014-06-26_1205 valid 72KB 0% 27%
hourly.2014-06-26_1305 valid 72KB 0% 27%
hourly.2014-06-26_1405 valid 76KB 0% 28%
hourly.2014-06-26_1505 valid 72KB 0% 27%
hourly.2014-06-26_1605 valid 72KB 0% 27%
daily.2014-06-27_0921 valid 60KB 0% 24%
hourly.2014-06-27_0921 valid 76KB 0% 28%
snapmirror.10af643c-32d1-11e3-954b-123478563412_2147484682.2014-06-
27_100026
valid 44KB 0% 19%
11 entries were displayed.

cluster_dest:> volume snapshot show -vserver svm_backup -volume volA_dst
---Blocks---
Vserver Volume Snapshot State Size Total% Used%
-----
svm_backup volA_dst
weekly.2014-06-09_0736 valid 76KB 0% 30%
weekly.2014-06-16_1305 valid 80KB 0% 31%
daily.2014-06-26_0842 valid 76KB 0% 30%
hourly.2014-06-26_1205 valid 72KB 0% 29%
hourly.2014-06-26_1305 valid 72KB 0% 29%
hourly.2014-06-26_1405 valid 76KB 0% 30%
hourly.2014-06-26_1505 valid 72KB 0% 29%
hourly.2014-06-26_1605 valid 72KB 0% 29%
daily.2014-06-27_0921 valid 60KB 0% 25%
hourly.2014-06-27_0921 valid 76KB 0% 30%
snapmirror.10af643c-32d1-11e3-954b-123478563412_2147484682.2014-06-
27_100026

```

3. 変換中にスケジュールされた更新が実行されないようにするために、既存のDPタイプの関係を休止します。

```
snapmirror quiesce -source-path <SVM:volume> -destination-path  
<SVM:volume>
```



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm_backup`のデスティネーション ボリューム `volA_dst`間の関係を休止します：

```
cluster_dst::> snapmirror quiesce -destination-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror quiesce`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

4. 既存のDPタイプの関係を解除します。

```
snapmirror break -destination-path <SVM:volume>
```



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm_backup`のデスティネーション ボリューム `volA_dst`の関係を解除します：

```
cluster_dst::> snapmirror break -destination-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror break`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

5. デスティネーション ボリュームでSnapshotの自動削除が有効になっている場合は、無効にします：

```
volume snapshot autodelete modify -vserver _SVM_ -volume _volume_  
-enabled false
```

次の例では、デスティネーション ボリューム上のSnapshotの自動削除を無効にします volA_dst：

```
cluster_dst::> volume snapshot autodelete modify -vserver svm_backup  
-volume volA_dst -enabled false
```

6. 既存のDPタイプの関係を削除します。

```
snapmirror delete -destination-path <SVM:volume>
```

`snapmirror-delete`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-delete.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-delete.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm_backup`のデスティネーション ボリューム `volA_dst`間の関係を削除します：

```
cluster_dst::> snapmirror delete -destination-path svm_backup:volA_dst
```

7. ソースで元のSVMディザスタ リカバリ関係をリリースします。

```
snapmirror release -destination-path <SVM:volume> -relationship-info  
-only true
```

次の例では、SVMディザスタ リカバリ関係をリリースしています。

```
cluster_src::> snapmirror release -destination-path svm_backup:volA_dst  
-relationship-info-only true
```

`snapmirror release`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-release.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-release.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

8. `snapmirror show`コマンドから保持した出力を使用して、新しいXDPタイプの関係を作成できます：

```
snapmirror create -source-path <SVM:volume> -destination-path  
<SVM:volume> -type XDP -schedule <schedule> -policy <policy>
```

新しい関係では、同じソースボリュームとデスティネーションボリュームを使用する必要があります。この手順で説明するコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、SnapMirrorディザスタ リカバリ関係を、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm_backup`のデスティネーション ボリューム `volA_dst`の間に、デフォルトの `MirrorAllSnapshots`ポリシーを使用して作成します：

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1:volA -destination
-path svm_backup:volA_dst
-type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAllSnapshots
```

9. ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームを再同期します。

```
snapmirror resync -source-path <SVM:volume> -destination-path
<SVM:volume>
```

再同期時間を短縮するには、`-quick-resync`オプションを使用できますが、ストレージ効率の節約が失われる可能性があることに注意してください。



このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。再同期の際にベースライン転送は不要ですが、再同期には時間がかかる場合があります。再同期はオフピークの時間帯に実行することを推奨します。

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm_backup`のデスティネーション ボリューム `volA_dst`間の関係を再同期します：

```
cluster_dst::> snapmirror resync -source-path svm1:volA -destination
-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror resync`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-resync.html#parameters.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-resync.html#parameters.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

10. スナップショットの自動削除を無効にした場合は、再度有効にします：

```
volume snapshot autodelete modify -vserver <SVM> -volume <volume>
-enabled true
```

終了後の操作

1. `snapmirror show` コマンドを使用して、SnapMirror関係が作成されたことを確認します。

`snapmirror show`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-show.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. SnapMirror XDP デスティネーション ボリュームが SnapMirror ポリシーの定義に従ってスナップショットの更新を開始したら、ソース クラスタからの `snapmirror list-destinations` コマンドの出力を使用して、新しい SnapMirror XDP 関係を表示します。

DP型関係に関する追加情報

ONTAP 9.3 以降では、XDP モードがデフォルトとなり、コマンド ラインまたは新規または既存のスクリプトでの DP モードの呼び出しはすべて自動的に XDP モードに変換されます。

既存の関係は影響を受けません。関係がすでにDPタイプの場合、引き続きDPタイプのままとまります。ONTAP 9.5以降では、データ保護モードが指定されていない場合、または関係タイプとしてXDPモードが指定されている場合、MirrorAndVaultがデフォルトポリシーとなります。以下の表は、想定される動作を示しています。

指定するモード	タイプ	デフォルト ポリシー（ポリシーを指定しない場合）
DP	XDP	MirrorAllSnapshots（SnapMirror DR）
なし	XDP	MirrorAndVault（ユニファイド レプリケーション）
XDP	XDP	MirrorAndVault（ユニファイド レプリケーション）

表に示すように、さまざまな状況でXDPに割り当てられるデフォルトポリシーにより、変換後も以前のタイプとの機能的な同等性が維持されます。もちろん、必要に応じて、統合レプリケーション用のポリシーなど、異なるポリシーを使用することもできます：

指定するモード	そしてポリシーは...	結果は...
DP	MirrorAllSnapshots	SnapMirror DR
XDPDefault	SnapVault	MirrorAndVault
ユニファイド レプリケーション	XDP	MirrorAllSnapshots
SnapMirror DR	XDPDefault	SnapVault

以下は例外です。

- ONTAP 9.3以前のSVMデータ保護関係のデフォルトは引き続きDPモードです。

ONTAP 9.4以降では、SVMデータ保護関係のデフォルトがXDPモードに変更されました。

- ルート ボリュームの負荷共有データ保護関係のデフォルト値は引き続きDPモードです。
- ONTAP 9.4以前のSnapLockデータ保護関係のデフォルトは引き続きDPモードです。

ONTAP 9.5以降では、SnapLockデータ保護関係のデフォルトがXDPモードに変更されました。

- 次のクラスタ全体のオプションを設定した場合、DPを明示的に指定した場合のデフォルトは引き続きDPモードです。

```
options replication.create_data_protection_rels.enable on
```

DPを明示的に指定しない場合、このオプションは無視されます。

関連情報

- ["snapmirror create"](#)
- ["snapmirror delete"](#)
- ["snapmirror quiesce"](#)
- ["snapmirror release"](#)
- ["snapmirror resync"](#)

ONTAPのアップグレード前に長期保持Snapshotを無効にする

カスケード ボリュームの関係では、ONTAP 9 のすべてのバージョンにおいて、長期保存スナップショットはカスケードの最終的な SnapMirror デスティネーション ボリュームでのみサポートされます。カスケード内の中間のボリュームで長期保存スナップショットを有効にすると、バックアップとスナップショットが失われます。

["長期保存Snapshot"](#)についての詳細をご覧ください。

カスケードの中間ボリュームで長期保存スナップショットが有効になっているサポートされていない構成がある場合は、テクニカル サポートに連絡し、リンク[https://kb.netapp.com/on-prem/ontap/DP/SnapMirror/SnapMirror-KBs/Cascading_a_volume_with_Long-Term_Retention_\(長期保存\)_snapshots_enabled_is_not_supported](https://kb.netapp.com/on-prem/ontap/DP/SnapMirror/SnapMirror-KBs/Cascading_a_volume_with_Long-Term_Retention_(長期保存)_snapshots_enabled_is_not_supported)[NetApp ナレッジ ベース：長期保存（LTR）スナップショットが有効になっているボリュームのカスケードはサポートされていません^]を参照してください。

次のONTAPバージョンでは、最終的なSnapMirrorデスティネーション ボリュームを除くカスケード内のどのボリュームでも長期保存Snapshotを有効にすることはできません。

- 9.15.1以降
- 9.14.1P2およびP4～P14
- 9.13.1P9～P17
- 9.12.1 P12～P19

- 9.11.1P15～P20
- 9.10.1P18～P20
- 9.9.1P20

カスケードの中間ボリュームで長期保存Snapshotを有効にできるONTAPバージョンから、それをブロックするONTAPバージョンにアップグレードする前に、バックアップとSnapshotの欠落を回避するために、長期保存Snapshotを無効にする必要があります。

以下のシナリオでは対処が必要です。

- 長期保存スナップショットは、「A > B > C」 SnapMirrorカスケード内の「B」ボリューム、またはより大きなカスケード内の別の中間のSnapMirrorデスティネーションボリューム上に構成されます。
- 長期保存スナップショットは、SnapMirrorポリシールールに適用されるスケジュールによって定義されます。このルールは、ソースボリュームからスナップショットを複製するのではなく、デスティネーションボリュームに直接スナップショットを作成します。



スケジュールとSnapMirrorポリシーの詳細については、"[NetAppナレッジベース：ONTAP 9 SnapMirrorポリシー ルールの「schedule」パラメータはどのように機能しますか？](#)"を参照してください。

手順

1. カスケードの中間ボリュームにあるSnapMirrorポリシーから長期保持ルールを削除します：

```
Secondary::> snapmirror policy remove-rule -vserver <> -policy <>
-snapmirror-label <>
```

```
`snapmirror policy remove-rule`
```

の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-policy-remove-rule.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-policy-remove-rule.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. 長期保存スケジュールのないSnapMirrorラベルにルールを再度追加します：

```
Secondary::> snapmirror policy add-rule -vserver <> -policy <>
-snapmirror-label <> -keep <>
```



SnapMirrorポリシールールから長期保存スナップショットを削除すると、SnapMirrorは指定されたラベルのスナップショットをソースボリュームから取得します。また、適切にラベル付けされたスナップショットを作成するには、ソースボリュームのスナップショットポリシーにスケジュールを追加または変更する必要がある場合もあります。

```
`snapmirror policy add-rule`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-policy-add-rule.html>["ONTAP コマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. 必要に応じて、ソース ボリュームのSnapshotポリシーでスケジュールを変更（または作成）し、SnapMirrorラベルでSnapshotを作成できるようにします。

```
Primary::> volume snapshot policy modify-schedule -vserver <> -policy <>  
-schedule <> -snapmirror-label <>
```

```
Primary::> volume snapshot policy add-schedule -vserver <> -policy <>  
-schedule <> -snapmirror-label <> -count <>
```



SnapMirrorカスケード構成内の最終的なSnapMirrorデスティネーション ボリュームでは、長期保存Snapshotを引き続き有効にすることができます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。